

荒木勝啓先生への献辞

荒木勝啓先生は、2020年1月に古希を迎えられ、2020年3月末をもって駒澤大学を定年退職されます。古希をお祝い申し上げますとともに、38年の長きにわたり駒澤大学および経済学部の発展に貢献された研究・教育・学部の活動に感謝申し上げます。

荒木先生は、早稲田大学第一政治経済学部卒業後、同大学大学院経済学研究科修士課程を修了し、1981年3月に同大学大学院経済学研究科博士後期課程単位習得退学されました。大学院在学期間中、早稲田大学教育学部時間制副手を務められています。1981年4月より駒澤大学経済学部専任講師として着任されました。1985年4月には助教授、1997年4月には教授となり駒澤大学における研究と教育の充実・発展に寄与されてきました。経済学部の主要担当科目として「ミクロ経済学」をご担当されてきました。

大学院教学では、1998年には大学院経済学研究科修士課程担当教授、2005年には博士後期課程担当教授となられています。また、2011年4月から2013年3月および2015年4月から2017年3月まで大学院経済学研究科委員長を歴任され、大学院教学の発展に寄与されてきました。

ご研究においては、1987年には、ケンブリッジ大学にて Visiting Scholar として在外研究(国外)に従事されました。荒木先生は、これまで景気循環モデル・自己回帰モデル等の計量経済アプローチを用いて金融データや経済データの時系列解析を探求されてきました。ご研究を展開される際、極めて早い時期からコンピューターを用いたシミュレーション・定量分析に取り組んでこられ、その研究手法を本学の教育に還元され、経済学部の教育に貢献されてきました。近年では、ご自身のご研究をさらに発展させ、ガウス過程・ニューラルネットワーク(人工知能)・MIMO (Multi Input Multi Output) といった最先端の手法を用いた金融・経済予測に意欲的に取り組んでおられます。

荒木先生は健康そのものと拝見しております。ご健康にご留意いただき、今後ますますご研究を発展され、多くの研究成果を世に問われ、ご活躍されることを祈念いたします。今後とも私たち後進をご指導いただきますよう祈念いたします。

経済学部長 岩波文孝